

大阪府立茨田高等学校
令和5年度 第2回学校運営協議会 議事録

令和5年11月9日（木）@会議室

委員：協議委員 [川村幸治、早坂三郎、寺野雅之、渡邊哲朗、綿世良一、滝本あゆみ]
本校委員 [松井くみ子、西岡宏二、紙本享介、野崎龍、西本敦史、木原義憲、
吉川力、南花子、下村真也、大東央靖、國見将]

欠席者：なし

記録：西本敦史

1. あいさつ（学校長より）

2. 本年度の進捗状況と来年度の学校経営計画についての説明

●学校経営計画について

【令和5年度の進捗】

- ・生徒たちにわかりやすいUD（ユニバーサルデザイン）に即した教室整備の充実
- ・UD授業の取り組みとしてChromebookをいち早く全教員で活用している
→授業アンケートの結果にも表れている（今後電子黒板が導入される）
- ・生徒指導の改革
- ・自習室、個別学習、補習の実施
- ・茨田検定、読書週間の実施
- ・不登校生徒対策（生徒指導の改革とサポート体制をさらに厚くしていく）
- ・進路実現に向けた個別指導の実施
- ・コミュニケーション能力の向上（生徒と教員）をテーマにしている
→指導方針の共有と確認、指導力の向上、教員の意識改革
- ・いじめ対応体制の整備
- ・希望する生徒への進路面接指導の実施（外部講師の来校）
- ・地域連携などについては、茨田祭り、鶴見区民まつり、すくすくまつり他に参加、文化教室を開催（クラフトフラワーアレンジメント）
- ・在校生の様子を中学校へ伝える訪問の実施
- ・教職員の働き方改革（行事改革、ICTの活用）
- ・デジタル採点の導入研修の実施

【令和6年度の計画】

- ・探求的な要素を最大限意識した授業の創設
- ・学校活動すべてにおいて、探究的創造的な視点をもって計画する
- ・教職員数減に対応した授業体制の整備
- ・生徒の居場所づくり
生徒と教員や外部とのコミュニケーションの場、きっかけづくり

- ・生徒のサポート体制の強化
- ・閉校を控えている中で、卒業生の思いにも応えていきたいと考えている。
- ・校務の効率化をはかる
- ・チーム学校として動ける教職員集団の形成

●授業アンケート結果について

- ・第一回を7月に実施（年2回。2回目は12月に実施）
- ・ICT機器に関する質問項目を導入（項目5）
- ・項目8、9の推移について、非常に高い数値であった前回は上回り、圧倒的な高い数値が出ている
→授業内容充実の影響、高校生活に慣れていない1年生が不在であること、批判的な記述をする生徒が少ないことなどが要因となっていると認識している。
[協議委員より] ▲学年別での統計があるとよい

●いじめアンケート結果について

- ・回答および記述に対して丁寧に対応している

●コミュニケーションアンケート結果について

- ・あいさつやマナーにおいては数値の減少は見られるが、高い水準で推移している
- ・自己肯定感の指標においては、自尊感情項目で今後の取り組みのヒントがあった。
[協議委員より] コロナが明けてという年度。声に出してあいさつを促進してほしい。

●令和6年度教科書（選定・採択）一覧

- ・入り口に採択教科書を展示（来年度使用分のみ）
- ・採択理由も御覧いただけます

●現在の進路状況について

- ・今年度就職希望生徒が66.7%（公務員あり）
- ・進学はこれからが本番（推薦入試がはじまっている）
短大、専修学校は合格者が多数出ている
- ・就職決定率（28/36）、進学決定率（6/17）、全体進路決定率（34/54（うち未定1））

3. 協議 テーマ：【茨田高校の状況・取組みについて、奇譚のないご意見をいただく】

議長

○進捗状況について（来年度の取組についてはアイデア等も含めて）

協議委員

- ・閉校を控える中で生徒数が減っている状況では、子どもとの距離が近い方々（卒業生など）に積極的に声をかけることは有効ではないか。さまざまなコミュニケーションチャネルを活用していくことは重要だと考えます。

議長

- ・コミュニケーション、いじめ対応について

協議委員

- ・文化祭、生徒は楽しんでいた。
- ・生徒の中にある「くすぶり」に対して、学校はよく対応してくれていると思う
- ・生徒と関わる中で、たくさんのサポートを生徒たちに届けたいと感じた。
新しい取組をぜひ進めてほしい。（居場所の取組はとてもいいと思う）

協議委員

- ・教職員数の減少の弊害としては、生徒のコミュニケーションチャンネルが不足することだと考えられる。いい面としては、個別に密な関わりがもてること。
- ・生徒が毎日登校したくなる学校をめざしてほしい。
生きる力として、コミュニケーションを含め、エンパワーできる経験をさせてあげてほしい。
- ・R6は、最後の生徒の姿をイメージして「振り切った取組み」をぜひやって欲しい。そのために、学校も柔軟な発想ができなければならない。教職員も柔軟な発想でやってほしい。

議長

授業アンケートでの、学校に対して否定的な意見を言う生徒の減少についてどう思うか

協議委員

- ・生徒と教員の信頼関係が深まっていることを表していると感じる。
- ・学校経営計画の中身について
学校として茨田高校をどのように閉めるのか、といった視点が不足しているのではないかと感じる。最後の生徒・教員のホットなラストビジョンをイメージしてほしい。

議長

- ・こころのモニュメントを残してほしい。

→最後をこれでもかと意識していきたい。
(生徒からあがった声をたくさん拾い上げていきたい)

- ・お願いします。

協議委員

- ・エンドリミットに向けたデュアルシステム（原則的な取組みと閉校モードの取組み）は、良いと考えます。
- ・遅刻などに対する指導については、罰ではなく、得になるアイデアもあっていいのではないか。

- ・居場所づくりの案は興味深いです。現在の居場所カフェの取組みは非常に効果的だと感じる。
- ・いじめの窓口については、「誰でもいい」は逆に相談しづらい面があることも意識してほしい。意見箱の設置（必ず回答を出す形で）
- ・あいさつに関しては90%超えをしっかりとめざしてほしい。あいさつは自己肯定感にもつながる。
- ・生徒のICT活用能力について、スマホで速く文字入力できてもパソコンではからきしタイピングできないという状態では社会に出て苦勞するかもしれない。そのようなことのないようにしていきましょう。

議長

- ・令和6年の計画については、教職員全体でどんどん議論を深めていってほしい。
- ・いじめアンケートについて、教員の人権意識を高める研修の必要性を感じます。
- ・教職員の生徒に対する情熱をもっと出していくことが重要だと考えます。

協議委員

- ・中学校では、「こころの天気」の取組みをやっているところもある。ぜひ参考にしてください。

議長

- ・生徒には、コミュニケーション能力を発揮した適応能力を身につけてほしい。たくましく生きられる人間を育てられるように。

4. 謝辞

さまざまなご意見ありがとうございました。これからも教職員と議論を重ねてやっていきたいと思います。